

平成 30 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組について

葵区事務局会議・連絡調整会議 事務局

テーマ	<p>1. (仮称) 相談支援部会の設置、活動について (前年度からの継続)</p> <p>2. (仮称) 相談支援業務ガイドラインの策定について</p>
概要 (課題となるポイント)	<p>テーマ 1. 静岡市では特定相談支援事業所や相談支援専門員が少なく、相談支援専門員 1 人 1 人の負担が非常に大きいため、新規利用者を受け入れることが難しくなっている。</p> <p>計画相談の課題を整理し、対応策の検討や市への提言等をしていくためにも相談支援部会の設立が必要と考えている。</p> <p>テーマ 2. 異動および退職等で特定相談支援業務担当者が入れ替わることにより、最低限すべき業務の認識にズレが見受けられ、事業所によって利用者への対応が異なっていることが顕在化してきた。</p> <p>葵区では隔月で特定相談支援事業所にも連絡調整会議へ参加していただいていることから、そのような課題を捉えることができたが、事業所上層部の利益優先の経営や事業の本質への無関心から、日々過労で疲弊している相談支援専門員は他の区にもいると思われる。よって、そのような相談員を守るため、相談支援部会での協議を経て、相談支援業務ガイドラインを行政と共働で作成することが必要と考える。</p>
詳細 ・現状分析 ex.相談事例 (相談者の声) 既存のサービス 既存のデータ	<p>テーマ 2 に関する課題整理 (テーマ 1 に関しては前回協議会にて提案済み)</p> <p>◆葵区連絡調整会議および独自調査によって以下内容が顕在化</p> <p>イ、基本相談を丁寧に対応する事業所とそうではない事業所がある</p> <p>ロ、利用者が利用希望事業所を探してこないと計画書を作成しない</p> <p>ハ、担当者会議や事業所聞き取りなどを全く行わないが計画書などが出来てくる</p> <p>ニ、事業所上層部から月〇件以上とのノルマが課せられている (前年度まで)</p> <p>ホ、事業所上層部から採算性や業務効率化や超勤禁止勧告などを求められる</p>
事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析 (環境分析) ニーズの把握	<p>テーマ 2 に関する取組 (テーマ 1 に関しては前回協議会にて提案済み)</p> <p>①市内特定相談支援事業所へアンケートを実施</p> <p>・33 事業所の中から 17 名が回答 ガイドライン作成賛成 16 名 / 反対 1 名</p> <p>・アンケートを実施したことによりガイドラインの必要性が浸透した</p> <p>②他の行政区による相談支援ガイドライン作成状況調 (裏面参考資料参照)</p>
解決策や今後の方針	<p>テーマ 1 の相談支援部会は今回の自立支援協議会で設置予定</p> <p>テーマ 2 の相談支援業務ガイドライン作成について</p> <p>・相談支援部会発足後に同部会内で協議の上 行政と共働で作成</p>

他の行政区による相談支援ガイドライン作成状況調査について

葵区事務局会議・連絡調整会議 事務局

作成日：平成 30 年 7 月 6 日

◆神奈川県 横浜市 人口 373 万人

[横浜市における指定特定相談支援事業（計画相談支援）業務ガイドライン（平成 30 年 3 月版）全 120 頁]

作成主体：横浜市健康福祉局障害福祉課（★）

◆千葉県 船橋市 人口 63 万人

[船橋市障害者計画相談支援ガイドライン（平成 30 年度版）全 38 頁]

作成主体：船橋障害者相談支援事業所連絡協議会・船橋市役所 障害福祉課（※）

◆千葉県 市川市 人口 49 万人

[市川市障害児・者 相談支援ガイドライン（平成 30 年 1 月版）全 72 頁]

作成主体：市川市自立支援協議会 相談支援部会（※）

◆千葉県 浦安市 人口 17 万人

[計画相談支援の手引き（事業所用）（平成 27 年 7 月版）全 14 頁]

作成主体：浦安市 障がい福祉課

◆東京都 武蔵野市 人口 14 万人

[武蔵野市相談支援専門員ガイドライン（平成 28 年 3 月版）全 146 頁]

作成主体：武蔵野市 障害者福祉課・自立支援協議会 相談支援部会（基幹相談支援センター）（※）

◆大阪府 堺市 人口 81 万人

[計画相談支援 手引書（平成 28 年 2 月版）全 106 頁]

作成主体：堺市 障害施策推進課・堺市障害者自立支援協議会 相談支援ワーキンググループ（※）

◆大阪府 人口 882 万人

[大阪府相談支援ガイドライン 大阪府障がい者自立支援協議会（平成 24 年 3 月）全 77 頁]

作成主体：大阪府障がい者自立支援協議会（※）

（★）は行政主体でガイドライン作成されたものの内容は大変充実していて事業を盛り立てるといふ熱意を感じる

（※）は自立支援協議会が関与してガイドラインを作成していてそれぞれ細部に亘ってこだわりを感じる

平成 30 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組について

駿河区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ</p>	<p>地域の関係機関の連携強化と、自立支援協議会の周知・啓蒙について</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<p>障害者自立支援協議会の役割について、障害者総合支援法には「地域課題の共有」、「連携の緊密化」、「地域の実情に即した体制の整備」等が謳われている。しかし、地域の関連機関による協議会への意識は、設置より 10 年が経過した現在においても、未だ十分と言えない。</p>
<p>詳細 ・現状分析 ex. 相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年度、昨年度と、地域課題について検討する過程でアンケート調査を実施する機会があったが、その聞き取りの中で、地域の障害福祉サービス事業所における自立支援協議会への認知度の低さ、関与の少なさ、関係機関との連携の乏しさが浮き彫りとなった。協議会の役割や、地域の課題を吸い上げる仕組みなどについても、十分な周知が出来ておらず、関心も薄いことが窺えた。 ・また、特にいわゆる単独系や株式会社系、障害福祉系以外の法人が経営する事業所において、隣接した領域との連携がほとんど取れていない、連携の為のノウハウが足りないと言う実情もうかがい知れる。 ・実際に地域の課題に直面しているのは、地域の住民・支援者と、支援機関・事業所であり、それらの相互連携と協働無くして、地域課題の解決は図れない。
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex. 市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立支援協議会の周知」といったテーマでは、地域の支援者・関連機関の関心を集める事は難しいと判断し、より身近かつ対象を絞ったテーマで、啓蒙・連携強化のための場の設置を計画することとした。 ・7/10(火) 駿河区事務局として、「児童相談所の役割と、障害福祉分野との連携」をテーマに、児童系サービス事業所を中心に関係者を招き、連絡調整会議を開催した。参加者総数は 52 名。 ・配布したアンケートを集計したところ、自立支援協議会について十分に認識が無いとお答えいただいた団体が半数を超えた（詳細別紙）。
<p>解決策や今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年度内 3 回を目標に、自立支援協議会の周知・啓蒙と関連機関の相互連携をテーマに、様々な形で連絡調整会議を開催する。 ・今後の連絡調整会議の開催案として、精神病院関係者（退院促進事業・8050 問題等に絡めて）、区内各地域包括支援センター（65 歳の壁・老障介護等）との連携強化等が挙げられている。

駿河区連絡調整会議 7月 アンケート集計結果			
実施日：平成30年7月10日		回収数：37	
1. 本会議に関する質問			
①所属と役職をお教えてください。			
1)	放課後等デイサービス	14	
	特定相談支援事業所	8	
	児童発達支援	5	
	特別支援学校	7	
	その他障害福祉サービス	1	
	その他	4	
	回答なし	0	
2)	管理者	9	
	児童発達支援管理責任者	8	
	サービス管理責任者	1	
	その他	7	
	回答なし	15	
②本日は、どのような動機でご参加いただきましたか（複数回答可）。			
	児童相談所の業務内容を知りたかった		30
	児相との連携の取り方を知りたかった		30
	現在関わっている中で児相に相談したいケースがある		4
	その他		1
③本日の会議は、今後の業務において役に立つ内容であったと思いますか。			
	思う	33	
	思わない	1	
	その他	3	
	回答なし	0	
	(自由記入欄)		
	・認識の差が改めてわかった		
	・全く役に立たないとは思わないが…		
	・わかっているものの、どうしたらいいのか…と思いました		
④またこういった会議があれば、参加したいと思いますか。			
	思う	30	
	思わない	0	
	内容による	7	
	回答なし	0	

・委託相談支援

・コーディネーター
 ・保育士
 ・相談員
 ・相談支援専門員

⑤その他、ご意見・ご感想等、ご自由にお書きください。				
(自由記入欄)				
・「連携する」という点は本当に大変だと思ったが、責任を互いに分け合っって子どもの生活をまもっていきたくと思う。				
・もう少し簡単に説明してほしかった。児相さんがどんな所なのか どの関りをとれるのか？ 何度かお話を聞きたいと思いました。				
・児相さんの守備範囲と現場で直面している問題の溝がやはりある。虐待がおこっている場所で生活を続けることになってしまうのは成人の場面でもある。リセットする所がない（ないに近い）				
・今日はありがとうございました。後半の部分をもう少し時間をかけていくとよいなと思いました。実は皆さんのご意見・ご質問がたくさんあったのではないかと感じました。勉強になりました。学校では限界があるので介入とかでの連携をご協力いただきたいと思います。よろしくお願いします。				
・児相の業務だけでなく、実際のケースについて、連携の実際について教えていただきたい。				
・障がい児（重度）受け入れられる、ショートの方が欲しい				
・療育手帳の取得について				
・児童の求められている内容はひとつひとつのケースに重みがあると感じた。				
・児相も困っているはず…こどもの課題として、今ある会議・協議会で検討されていないなら「こども部会で」ということになるのでしょうか。各区事務局会議⇔連絡調整会議⇔部会、有効なものにしたいですね				
・今回は会議を開いていただきありがとうございます。4月から管理者になり、相談支援の方との関りや、どのようなケースで相談をして良いのかわかりませんでした。ですが今回の会議で自分が個別支援で悩んでいる事などをお伝えし、よりよい支援を共に提供できるようにしていきたいと思いました。				
・児童相談所の職員が数多くの案件を抱えていらっしゃる現状を知りおどろきました。放デイとして障害児に関わらせていただいておりますが、日々お子さまを見ていると養育能力に疑問を感じる保護者もいらっしゃいます。「不登校」と一言と言っても保護者の立場から言うとただ放ってるわけではない、親でもないのに…と言われかねない立場にあります。保護者への助言程度は可能ですが、指導とまでは立ち入れません。児相と電話での聞き取りは定期的にあります、伝えることが何の役に立っているのか、どこまで取り入って頂けるのかは毎回不明であります。もう少し「会う場」を増やすなど、何か進展できないかと思います。				
・業務内容はよく分かりました。実際の現場とは少しかけ離れているような気がします。				
・中途採用など知識や経験が豊富な方を積極的に導入してほしい。市でもっと動いてほしい。専門的な人をもっと配置するべき。				
・答えをにごさず、答えてほしいと思いました。解決につながらないので…。又、参加したいと思います。				
・障がい児も一保に預けられるように早急に検討してほしい。エールさんの質問に対して…家に帰ると警察ザタの事件をおこす…早急な対応を願う。				
・身近にまだ児相さんに関わるケースがありませんが、いい勉強になりました。				
・以前に児相さんで判定等を受けた利用者さんで、保護者さんからの要望と依頼があったようですが、その後一度も児相さんから連絡をいただいたことがありません。連携が取れると支援に役立つこともあるかと思いますが、児相さんとは連携がとれない印象が強いです。				
・今後も利用の仕方というか、実際の例とかあるとありがたいです。				
・家庭での（ネグレクト、心理的、身体的）虐待案件をかかえている事業所としては思いとこころがありますか、最後に牧野様がおっしゃったことが全てかなと思います。児童相談所様の立場や権限などを理解しつつ現場と協力関係（建設的な）を築いていくことが、虐待の解決にむけた大きな一歩になるかと思いました。				

<p>2. 本会議は「自立支援協議会への理解と関り」という大きなテーマの一環として行われたものです。今後もこのテーマに合わせて、会議や講演会を企画していく予定ですが、以下はそれに関連した質問です。</p>			
<p>①「静岡市障害者自立支援協議会」についてご存知ですか。</p>			
	名前も活動内容も知っている		15
	名前は知っているが、活動内容についてはよく知らない		9
	名前を聞いたことがあるが、ほとんど知らない		6
	名前を聞いたことがない		6
	回答なし		1
<p>②今後の会議で、「こんな内容を取り上げて欲しい」「こういった機関の方をお話を聞きたい」等のご要望、また「現在〇〇という団体・組織との連携に課題がある」等のご意見がありましたら、お聞かせください。</p>			
<p>(自由記入欄)</p>			
<p>・緊急時及び強度行動障害者に対する支援（一時保護等）</p>			
<p>・いろいろな立場でいろんな話ができる場を作っていただきたいです。ありがとうございました。</p>			
<p>・どのようなケースでどのような対応をしているか、どのように他機関と連携していったか、今後、どのように連携していきたいか等の話を聞いてみたいです。</p>			
<p>・今後も連携を深く、障がい児に関わる人達が、より良い支援ができたらと思う</p>			
<p>・事務局で次回につなげる話し合いを期待します。</p>			
<p>・放デイですが、家族全体の支援が必要だと思っています。ケアマネや保護者につく相談員、当事者以外の兄弟につくスクールソーシャルワーカー等と連携していきたいです。</p>			
<p>・他のスタッフも参加したかったのですが、開催時間に対応できず、今後午前中の開催のほうが参加しやすいです。</p>			
<p>・高齢の障害のある方、高齢の親と障害のある子どもの世帯への対応など、ケアマネージャーさんや高齢福祉の方と今後連携をしていきたいので、一緒に勉強する機会がもてるとよいと思う。</p>			
<p>以上</p>			

平成 30 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組について①

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ①</p>	<p>高齢者福祉関係機関との連携について</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・近年、80代の親と50代のひきこもり状態にある子(8050問題)に関する支援が増え、地域包括ケアシステムを構築する上でも高齢者福祉関係機関との連携が必要不可欠になっている。しかし、それぞれの機関が個々の対象者を中心に支援を進める傾向にあり、連携を取ることが難しい状況にある。 ・障害福祉サービスは、本人の意向を確認し同意を得た上で本人主体の支援を進めていくことが原則になっており、介護者の関わりが主となりやすい高齢者と比べると、支援に隔たりが生じている。
<p>詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障害者支援と高齢者支援では対象者が異なり、個人情報観点からも安易に相談をしにくい状況にある。また、支援方法についても検討する場が少なく、対応の仕方などの理解が得にくい。 ・老障同居世帯における高齢者を支援している地域包括支援センターや、障害者を間近で支援しているヘルパーからの相談窓口が明確でなく、障害者相談支援事業に関する周知が不足している。
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<p>障害者相談支援事業に関する周知、地域生活支援に関する情報を共有し、地域ネットワークの構築を図ることを目的に、清水区障害者相談支援連絡調整会議を開催した。</p> <p>【日時】平成30年5月9日（水）13:30～15:30 【参加人数】44名 【参加機関】 地域包括ケア推進本部 地域支え合い推進係 清水区内の全地域包括支援センター（10包括） 静岡市こころの健康センター 静岡市ひきこもり支援センターDanDanしずおか 静岡市生活支援ネットワークコーディネーター 清水区内特定相談支援事業所 等</p> <p>【アンケート調査】※P6～7 参考資料参照 【結果】 ・高齢者と障害者、個々の支援ばかりではなく全体を一つのケースとして捉える支援の方法について、共通認識を持つことが出来た。 ・普段聴くことが少ない精神科医の助言により、双方で互いの支援の進め方を理解することが出来た。 ・高齢者の相談窓口である地域包括支援センター担当者と一緒に顔を合わせられたことで、連携の必要性を確認することが出来た。</p>

<p>解決策や今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に高齢者福祉関係機関と協議する場を設け、顔の見える関係づくりを行うことで実際の業務に活かしていく。 ・清水区内の支援機関が一体となって支援に取り組むことで、障害者も高齢者も住み慣れた地域で自分らしい生活を送るための仕組みづくりを行う。
------------------	--

平成 30 年度 各区の地域課題の解決に向けた取組について②

清水区事務局会議・連絡調整会議 事務局

<p>テーマ②</p>	<p>静岡市東部地域(由比・蒲原)の障害福祉サービスについて</p>
<p>概要 (課題となるポイント)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市東部に位置する由比・蒲原地域においては、障害福祉サービス事業所が少なく、障害のある方の障害特性や生活状況に応じたサービス利用がし難くなっている。また、職場についても障害のある方に対応する企業や事業所が近隣に少なく、通勤の問題もあり就業が難しい。
<p>詳細 ・現状分析 ex.相談事例（相談者の声） 既存のサービス 既存のデータ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市と合併し 10 年以上経過する由比・蒲原地域在住の方は、清水区内の事業所を利用するが、近隣には事業所が少なく、要望しても気軽にサービス提供を受けることが難しい。・・・下記は事業所数 <ul style="list-style-type: none"> 居宅介護（1）、同行援護(1)、生活介護（2）(富士市内の静岡市対応基準該当生活介護事業所は、2 か所登録)、就労継続 A 型（1）、就労継続 B 型（2）、共同生活介護（1）、放課後等デイサービス(0) ・静岡市街地への通勤に使用できる公共交通機関は電車のみであり、バスは由比停まりのため就労先の選択肢が狭く、自立に向けた支援に限りがある。 ・公共交通機関の適正な利用ができない知的障害の方の通勤方法としては、徒歩や自転車、家族送迎等であるが、富士川、富士方面への自転車通勤も禁止されている場合があり、家族の負担も増しやすい。 ・放課後等デイサービスにおいては、現状では送迎に時間が掛りすぎてしまうため対応できる事業所が少なく、障害の状態に合わせた支援の時間が取り難い。
<p>事務局会議・連絡調整会議としての解決に向けた取組み ex.市場分析（環境分析） ニーズの把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・静岡市東部地域のサービス利用状況と、富士市・富士宮市西部地域のサービス利用状況と同様であるという情報を得て、双方の障害者福祉においてより良い支援策が講じられるよう、富士市自立支援協議会メンバーを招き情報交換のための会議を7月11日（水）に実施した。
<p>解決策や今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関や地域の方々に対し、障害福祉サービスについての理解を深めるとともに、就労を含めた協力機関を増やし、隣接する富士市と共有し支援策を検討する体制作りを行っていく。

1. 今回の連絡調整会議においては、高齢者と精神疾患のある家族との同居世帯の事例を取り上げましたが、会議に参加して良かった点がありましたか？

ある 33名
ない 0名
わからない 1名

上記を選んだ理由をご記入下さい。

・初めて会議に参加させて頂き、相談支援事業所の方々の話を聞いたこと。今後につながるものが構築できたこと。	(静岡市障害者福祉課)
・現場で支援に携わる方たちが困難だと思っていることが何なのかが分かった事と、松本先生の問題整理が勉強になったことから、参加して良かったと思います。 もう少し時間をかけて参加者皆さんの困っていることを聞くことができるような機会があったらもっと良かったです。	(静岡市障害者福祉課)
・解決に向けてのアプローチの方法についてお話を伺うことができたこと。	(清水区役所)
・参加して良かったと思います。ただ、検討するには人数が多すぎだと思いました(関係のない人もいるのでは)。グループワークしても良かったと思います。	(保健所精神保健福祉課)
・8050問題のある意味典型例でもあり、共通課題のようなものが見えてきた。	(こころの健康センター)
・支援者のかかわりの視点がわかりました。	(こころの健康センター)
・これだけ多くの機関が集まって”顔の見える関係”を作っていく意義は「包括ケア」構築に向け、とても大きいと思います。	(こころの健康センター)
・清水区の支援機関を知る事ができた。	(静岡市ひきこもり地域支援センター)
・支援にあたり、多角的に物事を捉えることができた。連携していく上でも情報共有を行い、同じ目的意識で支援にあたることの大切さを再確認しました。	(静岡市ひきこもり地域支援センター)
・地域に入って支援しているケースを具体的に知ることができた。当センターは家庭への訪問はできないため、協力できることや役割を見直すことができた。	(静岡市発達障害者支援センター)
・アセスメントをしっかりと、優先順位をつけて対応する。将来の事も考えて、本人を取りまく関係者との動機付けも大切だと思う。支援に関してのふり返りができてよかった。	(相談支援事業所すずらん)
・相談の中で8050問題が多い事を感じている為、事例検討や貴重なお話を聞けよかった。	(清水障害者サポートセンターそら)
・自分のケースとてらし合わせながら考えることができました。どのような視点から関わっていったら良いのか専門的な意見を聞くことができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。	(障害者相談支援センターわだつみ)
・①地域包括ケアのモデル的な課題だと感じた。②本人の困り感がないのが心配。③地域の資源、障害→百花園の活用もあるのでは。④地域の人にたより、たよられる関係を作る。	(障害者協会)
・似たような事例をかかえているので参考になりました。	(清水障害者サポートセンターそら)
・様々な方の意見が聞けて良かった。	(ワークステーションどんぐり)
・今後、連携していく上で押さえるべきポイントと連携のイメージができた。松本先生の話が大変わかりやすく、今後の参考になった。	(松原地域包括支援センター)
・各々の職種からの視点がみられたので、とても勉強になりました。なかなか業務だけでは聞けない方々もあり、資源の把握としても役に立ちました。貴重な時間をありがとうございました。	(地域包括ケア推進本部)
・課題整理ができた。精神Drから解説助言により方向性が確認できた。	(地域包括ケア推進本部)
・精神科Drのアセスメントが勉強になりました。各々の家庭状況もある中でなかなか机上通りにはいかないことも多いと思いますが、参考にさせていただきます。	(両河内地域包括支援センター)
・関係機関の皆さんの意見をお伺うことができて良かったです。アセスメントの重要性が再確認できました。	(港南地域包括支援センター)
・精神科医のご意見を聞くことができました。勉強させていただきありがとうございました。	(港南地域包括支援センター)
・機関ごと考え方(支援方針など)に傾向があることが何となくだが理解できた。	(岡崎越地域包括支援センター)
・顔が見えたこと。高齢者分野と障害者分野、それぞれがお互いに連携していきたいという同じ思いをもっていることを確認できたこと。	(港北地域包括支援センター)
・具体的な事例を用いての各関係者の方々からご意見を伺うことができて、大変勉強になりました。	(蒲原由比地域包括支援センター)
・事例を通して、当包括で担当しているケースで同じような課題を抱えている方がいらっしゃり、何が問題であり、どのように解決しなければならないか明確にすること、支援に携わる者がきちんと共通の方向性を持って関わる必要があることが整理することができたため、参加させて頂き、大変勉強になりました。	(蒲原由比地域包括支援センター)
・松本Drの話がわかりやすくとてもよかった。	(地域包括支援センター)
・主観であるが、主介入機関は問題解決や改善をしたいという想いが協力機関よりも強いものであると考えている。そのため、「こうしたら解決する」という最短ルートを取りがちで支援者の想いを主に重ねすぎてしまうこともある(自身もそうだが…)。それを協力機関である包括が手綱を引く役割を担わなければならないのに…とふりかえることができました。	(興津川地域包括支援センター)
・8050、しかも精神ひきこもりのケースは多くみられる。また勉強になりました。	(有度地域包括支援センター)
・支援者の心構えやケースの考え方等、とても勉強になりました。	(飯田庵原地域包括支援センター)
・さまざまな事業所さんがおり、いろいろな視点での事例への取り組み方をきけて参考になりました。	(港北地域包括支援センター)
・精神障害があるとまず病院受診につなげないといけないとばかり考えていました。受診にどうやったらつなげようかと先に考えていましたが、本日の会議に参加させていただき、考え方、方向性の検討が必要と認識できよかったです。ありがとうございました。	(高部地域包括支援センター)
・精神疾患と聞くとすぐ受診、必要に応じて入院と考えてしまいがちだが、本日の事例でそれが本当に本人にとって必要で有効なのかを主治医からしっかり聞き取る事の必要性を認識した。また、様々な担当機関があり、それぞれどうしたら地域で安全に暮らせるかという取り組みを行っている事を知ることができた。	(高部地域包括支援センター)

2. 障害者相談支援についての忌憚ない意見やご要望をご記入ください(このような会議に取り上げて欲しい議題など)。

・行政は申請主義なので、今回検討したケースのように引きこもりで支援を求めないケースの把握は難しいです。今回のようなケースを議題として上げていただき、行政としてできることがあるか検討することは意義があると思います。	(障害者支援課)
・は一とばるの方は日頃から今回の事例に限らずもっと多く困難事例があると思い、日々ご苦労があり、頭が下がります。昨年までは契約など書類相談に応じていましたが、今後はこのような現場のご相談が当課でよければ連絡ください(引き続き委託しているため)。	(保健所精神保健福祉課)
・精神の事例であれば参加して意見などお伝えできます。	(こころの健康センター)
・コメディカルも同じ悩みを抱えています。小地域でケース検討ができるとよいと思いました。	(こころの健康センター)
・8050問題、障害児引きこもり支援等。	(清水障害者サポートセンターそら)
・こんな機会があるとありがたいです。清水区委託相談事業の方々おつかれ様です。	(清水障害者サポートセンターそら)
・今後も色々なケースを取り上げてください。	(ワークステーションどんぐり)
・多分野にわたる相談が増えていると思います。様々なケースにかかわっていただいていると思いますので、多くの事例について勉強して頂けると幸いです。	(地域包括ケア推進本部)
・包括支援センターの個別事例支援への協力、個別ケース会議、地域ケア会議等への出席、助言を頂けると嬉しく思います。	(地域包括ケア推進本部)
・このような会議がくりかえし開催されると良いと思います。よろしく願います。	(港南地域包括支援センター)
・高齢者、障害など、制度を知ることは大切なことだと思うが、各機関が自らの考え方の幅(視野)を広げる努力が必要だと感じた。サービスありきではなく、生活という視点でもっと考えていかなければいけないと感じた。	(岡船越地域包括支援センター)
・今後、回数を重ねるにつれて、基本的な障害の機関の機能、役割、サービスの説明(包括向けの)。高齢者と障害者の分野関係なく、グループワークによる意見交換。小グループの方がもっと距離が近くなる。	(港北地域包括支援センター)
・手帳をまだ取得していない、介護認定をまだ取れていない段階での支援の限界を感じています。今後も伴走していただくと大変ありがたいです。よろしく願います。	(蒲原由比地域包括支援センター)
・このような気になるケースの事例検討会で意見交換をお願い致します。	(蒲原由比地域包括支援センター)
・定期的に参加させて頂きたいです。今日はありがとうございました。	(有度地域包括支援センター)
・介護保険と障害の制度の違いや移行の仕方など。	(港北地域包括支援センター)
・障害のヘルパー、介護保険のヘルパー、併用する際の注意点などを分かりやすく説明して欲しい。	(高部地域包括支援センター)

3. 今後、このような会議のご案内をした場合、ご参加いただけますか？

はい 30名
 いいえ 0名
 わからない 1名
 無記入 3名

・個別のケースで必要に応じて対応させていただけるとありがたいです。	(清水区役所)
・声が聞きとり辛かったです。マイクを使って頂けるとありがたかったです。	(地域包括支援センター)